

平成 21 年度 第 2 回意見交換会報告

日時： 平成 21 年 10 月 10 日（土） 14:00 ～ 17:00

場所： ハピネスケア四谷（健康保険組合連合会東京連合会）

出席者（敬称略、順不同）：相部紀夫（永光） 五十嵐英則 中後晶久（荏原実業）平林憲次 小松 繁
岩橋尊嗣（新エポリオン） 祐川英基（三菱マテリアルテクノ）高橋通正（神奈川県環境科学センター）
小坂芳雄（環境管理センター） 武居廣雄（リスニ） 中田祐志（三洋電機） 佐藤博（長崎国際大学） 相部草子
久保田豊秋（九宝物産） 金子 健（東京デオドラント） 西村洋昭（空調工業） 吉栄康城（新コスモス電機）
永草康彦（三菱マテリアルテクノ） 伊藤英武（記） 以上参加者 19 名（会員 17 名非会員 2 名）

1. 講演報告

演題 「香りの官能評価」～香料開発のための官能評価～

講師 堀内哲嗣郎殿（元 小川香料株）

我々は三点比較式臭袋法や 6 段階臭気強度表示法など、定められた方法で臭気を測定・評価するが、香料など他分野ではどのようにしているのでしょうか。堀内先生に香りの官能評価法の概説と香料開発における適用例を解説していただいた。香料は、その評価目的が臭気と異なり、嗜好性、生理作用、知覚現象、心理事象等に重きがおかれ、3 段階で官能評価する。調香研究段階（調香師）・製品開発段階（専門パネル）・商品化段階（一般パネル）である。専門パネルは正常な嗅力を持った熟練・経験豊富な者 6～10 名で構成。専門パネルの嗅力は刺激閾低・弁別閾小・格付けなど数量的表現能力に優れ表現語彙が適切、香りの記憶力が優れている。一般パネルは調査目的にあった者を選定（性別、地域性、年齢、家族構成、年齢等）50～100 名程度で構成。ホームユーステスト・会場テスト・グループインタビュー・呼び込み調査がある。パネルの注意点はにおいの強い化粧品使用は避ける等、三点比較式臭袋法と同様である。

パネル管理者の役割は臭気判定士と似ているが、記述用語の開発、定義付け、パネルへの説明・合意の形成が業務として加わる。サンプル調整と評価方法は次のような方法がある。①におい紙法（香水等：におい紙に一定量つけ嗅ぐ）②ボトル法（液状サンプル：ヘッドスペースのにおいを嗅ぐ）③三角フラスコ法（石鹼等：溶解して嗅ぐ）④毛髪束法（シャンプー等：毛髪束に浸して嗅ぐ）⑤カップ法（エアゾール等：カップ内に噴射して嗅ぐ）⑥パラフィン法（クリーム等：パラフィン紙で押しつぶし嗅ぐ）⑦チャンバー法（芳香剤：チャンバー内に静置し嗅ぐ）⑧オルファクトメーター法（におい状態のもの：吐出口で嗅ぐ）

サンプル提示方法は①絶対評価法（サンプル一つづつ）②一対比較法（サンプル二つづつ）③時間差比較法（時間差でサンプル提示）④順位法（サンプル三つ以上）⑤ラウンドロビン法（多サンプルを同時に渡す） 香調について、国際会議で基礎的香調表現、18 種が決まった。（シトラス、ミンティ、スパシー等） 調合香調表現はシトラス、フローラル、シプレ等である。香りの品質不安定要因は、PH、酸化剤等添加物、溶存酸素、金属イオン、光、温度等である。 評価結果はコンピュータ等の発達で多変数でも瞬時に処理できる。（多変量解析）

2. 意見交換会

今回の講演に予定している“悪臭物質の機器測定”について、概要説明を行い意見交換した。